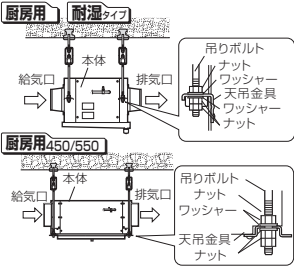


本体の据付け

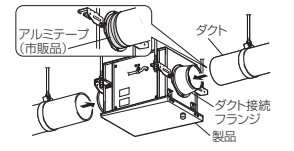


1 外形寸法図を参照し、強固な据付場所に市販の吊りボルトを埋め込む。(据付例参照)

2 本体が水平(1°以内)になるように本体を吊りボルトに据付け、吊りボルトに合う寸法の市販のワッシャー・ナット(M10~M12)を使用し締め付ける。
●製品表面に結露のおそれがある場合は、断熱処理を行ってください。

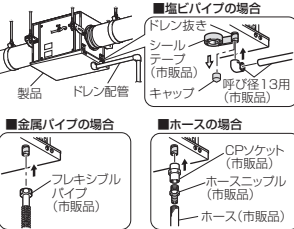
●垂直据付けはできません。
※ゆるみ防止のため、ダブルナットで確実に締め付けてください。

ダクト工事 共通



●給気口側・排気口側ともダクト接続フランジにダクトをしっかり差し込み、市販品のリベットまたはねじなどで固定し、風漏れのないよう市販のアルミテープでテーピングしてください。
●ダクトは製品に力がかからないよう天井より吊るしてください。また、本体に穴をあけてダクト接続をしないでください。本体内部の電装部を破損し、漏電・火災・感電のおそれがあります。
●結露のおそれがある場合は断熱処理を行ってください。

ドレン抜き工事 共通



●浴室など湿度の高い場所の換気(消音形耐湿タイプ)または、厨房など油煙の多い場所の換気(厨房用)を行う場合には、必ずドレン抜き工事を行ってください。
●製品下面にあるドレン抜きのキャップをはずしてください。
●ドレン抜きのねじは呼び径R1/2(呼び径13用)です。
●市販の配管部材にて接続してください。(厨房用には必ず金属パイプを使用してください)
●ドレン抜きへの配管部材の締付トルクは30N・m以下で行ってください。(ドレン皿が変形するおそれがあります)
●ホース(市販品)を取付けの際、ホースバンドにて必ず固定してください。

お願い

- ドレン配管から水が漏れないように工事を行ってください。
- ドレン抜きとの接続はねじ部に市販のシーリングテープを巻付けてから接続してください。
- パイプの端は、必ず処理可能なところまで導きドレン処理を確実に行ってください。
- 配管処理は、こすりを避け、水および油がたまらないように行ってください。
- ドレン配管に結露や凍結のおそれがある場合は、必ず断熱処理を実施してください。

ドレン配管方向を変更する場合

1 設置条件によりドレン配管方向を変えた場合は、ドレン皿と製品を固定する金具(ドレン皿固定金具)の固定ねじ8本(ドレン皿側)をはずします。

2 はずしたドレン皿を180度回します。

3 必ずはずしたねじにて確実に締め付けて製品にドレン皿を固定します。
●ねじが確実に締め付けられていない場合は水漏れの原因となります。

※BFS-450TX2・550TX2は構造の違いにより配管方向は変更できません。

お願い

- ドレン皿固定金具の製品側のねじは、はずさないようにしてください。ドレン皿固定金具でけがをすることがあります。
- 一般のねじは使用しないでください。腐食によりドレン皿の落下のおそれがあります。

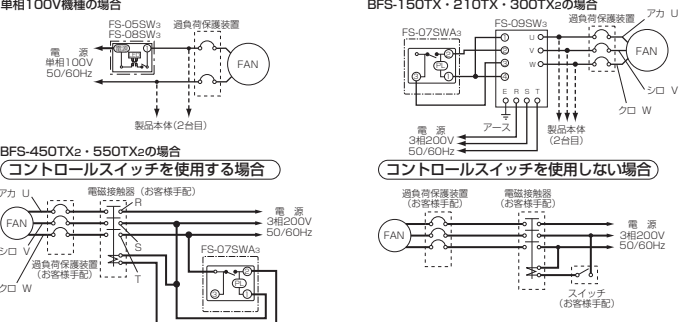
電気工事 共通

警告
定格電圧・定格周波数以外では使用しない
火災・感電の原因。
アースおよび漏電ブレーカを確実に取付ける
故障・漏電のときに感電の原因。

注意
電気工事は必ず資格者である電気工事が電気設備技術基準や内線規程に従って行う。絶対に「手より接続」はしない。又、電源電線の結線部分はJIS C 8340の「電線管用金属製ボックス及びボックスカバー」内にて行う
接続不良や誤った電気工事は感電、火災の原因。

コントロールスイッチ(別売システム部材)との組み合わせ

※図中太線および破線部分は、電気工事の資格を有する方にて施工してください。



お願い

- モータ焼損のおそれがあるため、モータブレーカ又は電磁開閉器(電磁接触器+サーマルリレー)の過負荷保護装置を電気設備技術基準や内線規程に従って設置してください。過負荷保護装置は必ず機器1台ごとに設置してください。過負荷保護装置の選定は「4(仕様)」の最大負荷電流の1.2倍を目処にしてください。ただし、製品本体に過負荷保護装置の定格表示があるものは、表示内容に従い過負荷保護装置を設置してください。
- スイッチの容量選定にあたっては起動電流×接続台数の容量としてください。
- また、電磁接触器を操作するスイッチの容量は電磁接触器の操作コイル電流以上としてください。
- 「入」[付]運転する場合は、コントロールスイッチの容量は電磁接触器の容量を参照してください。結線および使用方法はコントロールスイッチに付属の取扱説明書を参照してください。なお、3相製品はコントロールスイッチのみでは制御できません。必ず3相用コントロールボックス(別売システム部材)または電磁接触器と組み合わせて結線してください。
- ファンブレーカ(別売システム部材)で制御する際は、各製品の定格周波数を上回る設定では運転しないでください。モータが発熱し故障の原因となります。
- 3相200V製品は、ダクト接続する前に必ず回転方向を確認してください。
- 3相200V製品の電源接続は、本体の結線図取扱をよく確認し、電源線をU、V、Wに正しく接続してください。接続を間違えますと逆回転します。(風量低下の原因になります) 回転方向が逆の場合は3本の電源のうち2本を入れ替えてください。

6 試運転

据付け、ダクト工事、電気工事終了後は、必ず試運転を行い、正常に運転できることを確認してください。

1. 製品は確実に据付けてあります。
2. 電源コードに傷・いたみはありませんか。
3. 電源電圧は正しいですか。
4. 正しく結線されていますか。
5. 正しくアース工事はしてありますか。
6. 異常な振動や騒音・風漏れはありませんか。
7. 回転方向は逆ではありませんか。(3相製品で逆回転している場合、3本の電源のうち2本を入れ替えてください)
8. 羽根は回転しますが、回転は遅くありませんか。(回転しないか遅い場合は、結線が正しく行われているか確かめる)

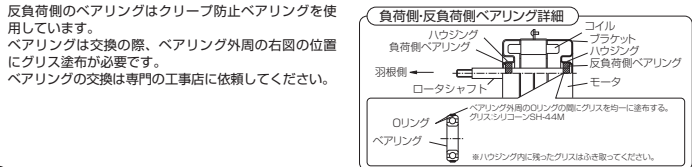
7 お手入れのしかた

警告
お手入れの際は必ず分電盤のブレーカを切る
感電やけがの原因。

注意
お手入れの際は手袋を着用する
端面などでけがの原因。

●フィルタ(給気口側)をご使用の場合は定期的に清掃を行ってください。
給気口側に取付けられた市販品のフィルタは種類・仕様により清掃方法も異なりますので注意してください。
●フィルタの目づまりは風量の極端な減少の原因となります。
●モータの駆動時には、荷重の過剰な使用を避け、注油の必要はありませんが、グリースの寿命は、約1万時間です。使用状況(異常音・風量減少など)によっては、点検のうえベアリングの交換が必要となります。ベアリングの交換は専門の工事店に依頼してください。
ただし、以下の製品についてはベアリング交換ができません。(モータ交換となります)
BFS-30SY1、BFS-40SY1
●モータに安全装置として、温度ヒューズが内蔵されているものがあります。
●温度ヒューズ内蔵機種……単相100V機種
(処置) ヒューズが溶断し運転不能となり再運転できません。電源を切り、専門の工事店へモータ交換を依頼してください。
●製品を長期間安心してご使用頂くために、半年に一度を目処にお手入れおよび点検(ねじのゆるみ、ほこり・油の堆積、錆、腐食の発生のないこと)を行ってください。(汚れたひどい環境の場合は点検周期を早めてください)

ベアリング交換についてのおお願い BFS-300TX2・450TX2・550TX2の場合



8 保守点検

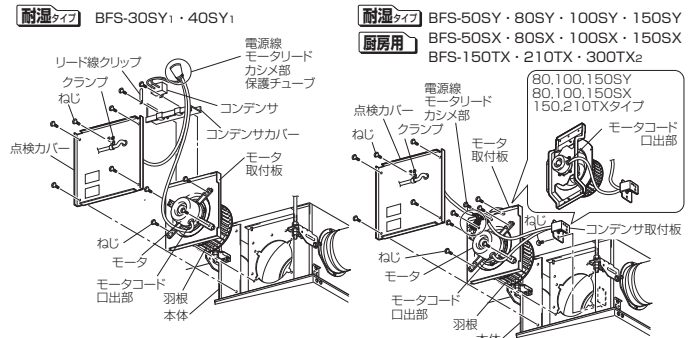
お願い

- 「厨房用」ストレートシロコファンをご使用の場合は調理に用いる油が製品内部・羽根・ドレン皿・ドレン配管に溜ることが想定されます。そのまま放置されますと、過負荷によるモータ焼損・異常振動・異臭や油漏れの原因となりますので半年に一度を目処に点検を行ってください。(汚れたひどい環境の場合は点検周期を早めてください)

警告
保守点検の際は必ず分電盤のブレーカを切る
感電やけがの原因。

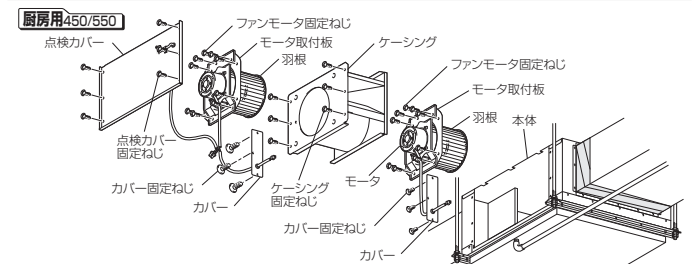
注意
保守点検の際は手袋を着用する
端面などでけがの原因。

万一、モータや羽根に異常があった場合は下記を参照して分解し、各部の点検を実施してください。点検後は、製品を分解した逆の手順で組み立ててください。



お願い

- モータリード線を無理に引っっぱらないでください。
- モータは重いため、モータ・羽根に傷を付けないよう、まてがのないよう取扱いは十分注意してください。
- 点検終了後は耐湿性確保の為、モータコード出口部および電源線・モータリードカメラ部へ防水処置をしてください。



●羽根、ドレン皿は中性洗剤を溶かしたぬるま湯に浸して汚れを落とし、水で洗いよく乾かしてください。
●清掃後は中性洗剤を溶かしたぬるま湯に浸して汚れを落とし、水で洗いよく乾かしてください。
●清掃後は中性洗剤を溶かしたぬるま湯に浸して汚れを落とし、水で洗いよく乾かしてください。

お願い

- お手入れに下記の溶剤などを使用しますと変質・変色する原因になります。
シンナー、アルコール、ベンジン、ガソリン、灯油、スプレー、アルカリ洗剤、化学ぞうきんの薬剤